

前橋市における成人歯科健康診査の実施報告

前橋市健康部保健所健康増進課

○坂井 あやめ、樋口 早苗、大友 里華、
茂木 望、小阿瀬 有紀、小保方 翠、
中西 啓子、塚越 弥生、渡邊 直行

はじめに

前橋市では平成 14 年度から 40 歳、50 歳を対象に歯周疾患検診を開始した。平成 24 年度から 30 歳～70 歳までの 5 歳刻みに対象年齢を拡大し、平成 28 年度からは成人歯科健康診査と名称を変更し、現在歯・喪失歯の状況、歯肉の状況、口腔清掃状態等を診査した。過去 5 年間の成人歯科健康診査結果についてまとめたため、報告する。

方法

平成 24 年度から平成 28 年度の 5 年度分の成人歯科健康診査受診者 8,662 人(男性 2,215 人、女性 6,447 人)についてエクセルにて集計を行い、 χ^2 検定を行った。前橋市ホームページにデータの取扱いについての情報を公開し、匿名化するなど倫理的に配慮した。p<0.05 を有意差とした。

結果

1) 受診率の推移(単年度集計)

受診率は、平成 24 年度は 6.7% であり、平成 26 年度から 10% 台を超え、平成 28 年度は 11.2% であった。(対象者は推計対象者数を使用)

2) 診査結果

診査結果は、異常なしが 1,134 人(13.1%)、要指導が 1,090 人(12.6%)、要精検が 6,438 人(74.3%) であった。要精検者の内訳をみると、最も多い判定区分は歯周ポケット 4mm 以上で 3,706 人(62.2%)、次いで未処置歯ありで 1,884 人(31.6%) であった。口腔清掃状態は、良好 2,621 人(30.3%)、普通 5,141 人(59.5%)、不良 885 人(10.2%) であった。

3) 質問項目

自覚症状がある者は 6,009 人(69.4%) であった。年齢別は 55 歳が 75.4% で最も高く、次いで 60 歳が 73.4% であった。最も多い自覚症状は「食べ物が歯と歯の間にはさまる」、次いで「歯が痛んだりしみたりする」であった(図 1)。

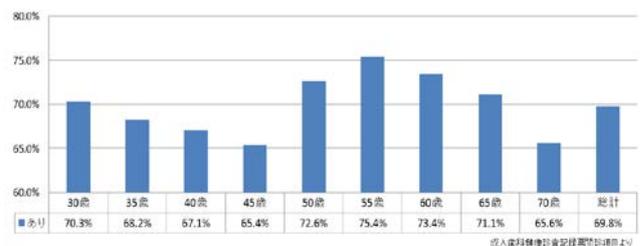


図 1 自覚症状

要精検と自覚症状の関連をみると、30 歳のみ自覚症状がある者の割合のほうが高かったが、それ以外の年齢では、自覚症状がある者より要精検の割合のほうが高かった(図 2)。

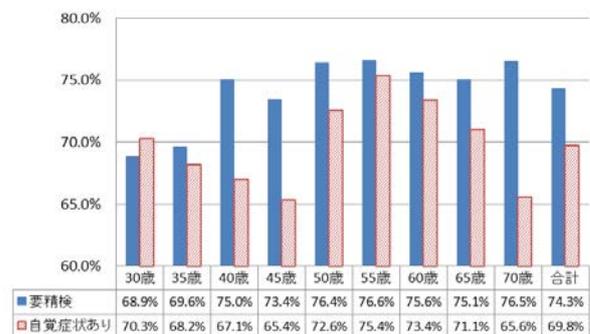


図 2 要精検率と自覚症状

4) かかりつけ歯科医の有無と診査結果との関連

かかりつけ歯科医がある者は 6,420 人(74.1%)、かかりつけ歯科医がない者は 2,066 人(23.9%)、無回答 176 人(2.0%) であった。診査結果「異常なし」

と「要指導」、「異常なし」と「要精検」にそれぞれに有意差がみられた。

5) 定期健診の有無と診査結果との関連

1年間に定期的な歯科健診を受けている者は3,595人(41.5%)、受けていない者は4,960人(57.3%)、無回答107人(1.2%)であった。診査結果「異常なし」と「要精検」に有意差がみられた。

6) 喫煙と診査結果との関連

喫煙している者のほうが診査結果「要精検」の割合が8.9%高く、喫煙していない者のほうが診査結果「異常なし」の割合が4.2%高かった。

7) 糖尿病と診査結果、歯周ポケットとの関連

糖尿病の罹患がある者のほうが診査結果「要精検」の割合が3.7%高く、糖尿病の罹患がない者のほうが診査結果「異常なし」の割合が5.0%高かった。

歯周ポケットについて、糖尿病の罹患がある者のほうが「歯周ポケット4mm以上」の割合が10.8%高く、糖尿病の罹患がない者のほうが「異常なし」の割合が10.8%高かった。

8) 歯周組織の状況

年齢別歯周組織の状況は、歯周ポケット4mm、5mmと判定された者は60歳が45.6%と最も高率であった。歯周ポケット6mm以上と判定された者は、70歳が16.7%と最も高率であった。また、高齢者だけでなく、30歳、35歳の若い世代にも、歯肉出血(約15%)や歯周ポケット(4mm、5mmは36.6%、38.4%、6mm以上は3.5%、4.0%)がみられた(図3)。

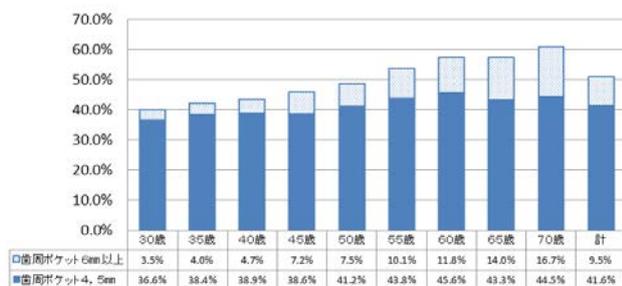


図3 歯周ポケット4mm以上と判定された者の割合

考察

かかりつけ歯科医について、ない者のほうが要

精検の割合が有意に高くなり、かかりつけ歯科医を持つことの意義が示されている。ただし、かかりつけ歯科医がいる場合でも、要精検の割合自体が高く、今後、より慎重な解析を必要とする。定期的な歯科健診受診については、すでに効果が実証されているが、本市における成人歯科健康診査においても有効性がみられた。

喫煙に関しても要精検の割合が有意に高くなり、また糖尿病の罹患に関しても、歯周ポケット4mm以上の割合が有意に高く、喫煙や糖尿病等の因子がある者に対し、口腔清掃状態の改善や、維持向上することの重要性が示唆された。

歯周ポケットについては、4mm、5mmと判定された者が、30歳代40歳代においてすでに4割近くに及んでいる。要精検内容において、歯周ポケットの判定が多いことから、健診受診者を増やし、早期からの歯周病対策が重要であることが示唆された。

また、歯周ポケット6mm以上と判定された者が加齢とともに上昇していることや、口腔内で自覚症状がある者が7割近くに及ぶことを踏まえると、本研究によって実証された、かかりつけ歯科医を決めること、定期的な歯科健診の受診を早期から習慣化することが、歯周病の予防及び重症化予防につながると思われる。

まとめ

本市は、早期からの歯科保健行動の習慣化に結びつけるために成人歯科健康診査の対象年齢を拡大することも検討している。今後も継続的に受診勧奨を行い、市民一人一人が望ましい歯科保健行動につながり生涯にわたり自分の歯で過ごすことができるよう周知・啓発に努めたい。

謝辞

本研究にご協力いただきました前橋市歯科医師会会長田口章太先生及び会員の皆様に心より感謝申し上げます。

参考文献

前橋市歯科保健年報